アメリカ西海岸 ★ Arizona

米国アリゾナ州フェニックスにおける研究留学報告

Barrow Neurological Institute
佐藤　広崇
旭川医科大学脳神経外科学講座

私は旭川医科大学脳神経外科学講座の佐藤広崇（平成26年卒）と申します。2025年1月より、Barrow Neurological Institute（Barrow Aneurysm & AVM Research Center、Principal Investigator: Tomoki Hashimoto）へ留学しております。

このたび、上原記念生命科学財団の年報「1年のあゆみ」への寄稿の機会をいただき、心より御礼申し上げます。私の留学先である米国アリゾナ州フェニックスは、他の留学先と比べると日本では馴染みが薄い地域かもしれませんが、今後アリゾナ州への留学を検討される先生方の一助となれば幸いです。

Barrow Neurological Instituteは、脳血管障害領域において世界的に著名な施設の一つであり、臨床・研究の双方から先進的な取り組みが行われています。私が所属するBarrow Aneurysm & AVM Research Centerは、臨床現場で世界をリードする医師・研究者と日々協働しながら、脳血管障害に関する新たな知見を発信することを目標に研究を進めております。



←近所の公園を散歩中の一枚

現在の私の主な仕事は、出血性脳血管障害を対象に、動物実験を通じた脳動脈瘤の破裂機構の解明や、くも膜下出血の病態理解に取り組むことです。周囲の研究室では、神経変性疾患から脳神経画像研究に至るまで多岐にわたる研究が展開されており、日々刺激を受けながら充実した研究生活を送っております。

私が生活するフェニックスの最大の特徴は気候、とりわけ「暑さ」です。真夏には気温が45℃を超えることもあり、私自身、自宅から徒歩で通勤するわずか800mの距離であっても、眩暈を自覚したことが数回ありました。そのため夏季は通勤時に必ず水を携帯し、こまめな水分補給を心がけています。一方で、真夏の厳しい暑さを除けば、フェニックスは非常に過ごしやすい地域です。冬は早朝に気温が10℃を下回る日もありますが、日中は20℃前後まで上昇し、暖かく感じられます。北海道から渡米した私にとって、一年を通じて晴天の日が多いこの土地は、家族も含め大変魅力的に映っております。

アリゾナ州はメキシコと接しており、ヒスパニックの方々が多く暮らしています。その影響もあり、明るく親しみやすい方が多い印象で、日常生活の中でも助けられる場面が多々あります。食文化においてもメキシコ料理は身近で、我が家ではタコスが家族全員のお気に入りになりました。物価上昇や為替の影響は避けられないものの、家族とともにフェニックスでの生活を楽しむことができています。子どもたちも現地校へ通学し、友人や先生方に支えられながら日々成長しております。9歳の長女の英語力の伸びには目を見張るものがある一方、5歳の長男は学校で学ぶ英語とスペイン語を混同することもあり、微笑ましくもやや気がかりに感じることがあります。

最後になりますが、このような貴重な海外留学の機会を支援してくださった上原記念生命科学財団に、改めて深く感謝申し上げます。帰国後は、本留学で得た知識・技術を今後の研究の発展に活かすとともに、後進の指導にも還元していきたいと考えております。